

## 器楽専攻管打楽器コース 3 ポリシー

### ディプロマ・ポリシー

#### ■ 人材育成目標

器楽専攻管打楽器コースでは以下に挙げる人材の育成を目指しています。

- ・あらゆる演奏形態に対応する演奏技術ならびに表現方法を修得し、豊かな感性と創造性に満ちた活動を行う能力をもった人材
- ・ソリスト・室内楽奏者・オーケストラ奏者等の演奏活動、また教育者・指導者としての活動を通じて広く社会貢献し得る人材

#### ■ 卒業までに身につけるべき資質・能力

- ・独奏、アンサンブル、オーケストラなど多様な演奏活動に対応できる力
- ・豊かな感性と創造性

#### ■ 学位の授与方針と評価方法

最終年次の「卒業演奏」を含めた所定の単位を修得した学生を卒業と認め、学士の学位を与えます。

- ・所定の在学期間の確認、必要単位修得の確認
- ・卒業演奏の評価・・・専門実技の学修成果を総合的に審査する「卒業演奏」では、各学生の演奏を複数の教員が様々な視点から個々に採点し、それらの集計結果により評価を決定します。

### カリキュラム・ポリシー

#### ■ 教育課程の編成方針

一対一の個人レッスンによる充実した専門実技授業と室内楽からオーケストラまで大小様々な規模のアンサンブル実習授業により、あらゆる演奏形態に対応する演奏技術と表現方法を身につけられるようカリキュラムを編成します。

#### ■ 具体的なカリキュラム構成と特徴

- ・個人レッスン形式の専門実技授業「管打楽器奏法の研究」、楽器の専門知識を学ぶ「管打学基礎」、アンサンブルを行う「室内楽」、ウインドオーケストラの実習授業「管楽合奏」、弦楽器コースと共同で行う「オーケストラ」を 5 つの柱として、あらゆる演奏形態に対応する演奏技術・表現方法を修得します。
- ・特に、本学最大の合奏授業である「オーケストラ」では、学部・大学院生全員で授業を行い、曲ごとの演奏者は年次に関りなく教員により指名され、下級生と上級生が混ざって合奏を行うことでお互いに大きな刺激を与え合います。また教員と一緒に演奏することで、その場で素早くアドバイスを受けられ、音楽を肌で感じ取り、多くのことを学んでいきます。
- ・また、外来のアーティストによるレッスンや特別講座、提携校への派遣留学制度などにより、国際的な学修経験を積む機会が設けられています。

#### ■ 教育課程の評価方針・方法

- ・専門実技試験では、各学生の演奏を複数の教員が様々な視点から個々に採点し、それらを集計した結果により評価します。
- ・その他の授業科目については、各科目の担当教員がシラバスに定めた方法によって評価します。

### アドミッション・ポリシー

#### ■ 求める人物像

- ・豊かな感受性、想像力、表現意欲を備えている人
- ・人との関わりや思いやりを大切にし、協調性、適応能力に優れた人
- ・アンサンブルなど共同での演奏に関心のある人

- ・物事への積極性があり、国際的な視野を持っている人
- 入学前に身につけてほしい学習成果
  - ・主要オーケストラ作品、室内楽など様々な作品に親しみ、知識を広げておくこと
  - ・高いレベルの演奏表現能力
  - ・音楽の基礎的能力（ソルフェージュ、ピアノ、楽典）
  - ・基礎的な学力、語学力
- 入学試験の基本的な方針・考え方
  - 【一般入学試験】
    - ・専門実技試験の結果に加え、音楽の基礎的能力試験（ソルフェージュ、ピアノ、楽典）と大学入試センター試験（外国語、他）の結果を総合して合否を判定します。
    - ・専門実技試験では、演奏家としての資質、技術、表現力をみます。受験者一人一人の独奏を複数の審査員が様々な視点から個々に採点し、それらを集計した結果により評価を決定します。
  - 【推薦入学試験】
    - ・書類審査（音楽活動記録、調査書他）及び録音による演奏審査の後、専攻実技試験、音楽の基礎的能力試験、口述試験の結果を総合して合否を判定します。